

平成28年度 最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
1. 地域連携による教育力の向上 ①小中学校等との協働研究事業を推進する ②小中学校と生徒間交流事業を拡充する ③実践的・探究的地域学習を充実する	<ul style="list-style-type: none"> * 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会 	協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	68% C	成果：本校の教員36名が輪島中学校の授業を参観し、中学校の教員も23名が本校の授業を参観した。また、東陽中学校の研究発表会には本校教員10名が参加した。このことにより、中高の授業の状況や生徒の状況について互いに理解を深めた。中高連携教育力向上推進協議会では、学習習慣の確立を共通テーマとして掲げ取り組んだ。 課題：近年、本校生徒の家庭学習時間が伸び悩んでいる（むしろ低下している）が、輪島市内の小中学校においても児童生徒の家庭学習と休日学習の時間が少ないことが課題となっており、小中高・家庭が連携協力して効果的な取組を行っていかねばならない。 改善策：年2回実施している中高連携教育力向上推進協議会に向けて中高の連携を強化し、相互に取組の進捗状況を確認する。また、PDCAによる具体的な改善策を協議し、通信の発行を通して優れた実践の発信と共有を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> * 挨拶指導 * 中高学習交流 * 進路学習交流 	小中学校との生徒間交流事業の実施回数が A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 3回以下	5回 C	成果：中学生との学習交流会や中学校でのキャリア教育講演会、あるいは小学校での挨拶指導に参加した生徒は、地元の生徒に「教える」という体験を通して地域貢献意識を高め、自己有用感や達成感を得た。 課題：より多くの生徒が小中高生徒間交流事業に参加できるように、事業の規模や日程を工夫する必要がある。 改善策：各学校が次年度の年間行事計画を検討する2月より、小中学校との情報交換を行ってスケジュール調整に努め、事業内容を検討し、実施回数を増やす。
	<ul style="list-style-type: none"> * 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア 	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A 34% B 47% A+B 81%	成果：地域調べ学習や地元企業見学会、インターンシップ、朝市販売実習を通して、生徒の地域理解が深まるとともに、キャリア意識が高まった。 課題：地域の課題やその解決策について、より深く探究しようとする意識を一層高め、活動を一過性の体験で終わらせないようにしなければならない。 改善策：活動後の事後指導を充実させ、新たな課題意識も持たせる。また、日々の教育活動の中で、課題解決のために思考し、発表する機会を設ける。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度実施した地元企業見学会の生徒感想はどうだったか。企業選定に当たっては、人手不足の企業も多くあり今後は広く募集し、いろいろの企業を見学して新しい発見をしてもらいたい。 ・挨拶指導も徹底されており、毎朝さわやかな挨拶が行われている。多くの小学校への指導をお願いしたい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、生徒・保護者を対象に輪島市を中心とした地元企業（9社から12社）による説明会を企画し、地域理解を深める事業を推進する。 ・挨拶運動は全校あげて取り組んでおり、今後も交流を図ってきたい。 			

平成28年度 最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2: 学習意欲と深い思考力の向上 ①習熟度別学習指導を充実する ②ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を導入する ③家庭学習と連動させた授業・個別指導を実践する	* 習熟度別授業 * 発展学習講座 * 個別添削指導 * 土日学習会	入学当初の模試より模試成績を向上させた1年生の生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>36% D</u>	成果: 1年生普通科の基礎学力調査(4月と8月の比較)では、82%(114名中94名)の生徒が成績を向上させたが、全国模試(7月と10月の比較)では、成績を向上させた生徒の割合は36%(114名中41名)であった。 課題: 入学した4月から8月にかけて基礎学力は向上したが、その後の応用的、総合的な学力を伸長させる手立てが必要である。 改善策: 習熟度別の指導を充実させるとともに、課題を習熟度別に精選して、各層の総合的な学力の伸長を図る。また、本校の進学校としての指導のノウハウを活かし、1月模試での目標達成を図る。
	* アクティブ・ラーニング型授業のための研修会 * 授業改善計画	アクティブ・ラーニング導入にむけた研修会の実施回数 A 10回以上 B 8回以上 C 6回以上 D 5回以下	<u>10回 A</u>	成果: 中間自己評価後に、各教科要請訪問での研究授業授業整理会や、いしかわ探究スキル育成プロジェクト参加後の還元研修会などの研修会を通じて、アクティブ・ラーニングに対する知識やスキルを高めることができた。 課題: 優れた授業実践を教職員全員で共有し、効果的なAL型授業を本校の授業スタンダードにしなければならない。 改善策: 校内の優れた授業実践を選抜し、各学年の発達段階に応じたAL型模範授業として教職員全員が参観できる形式で研究授業・授業整理会を行い、効果的なAL型授業を校内で統一的に実践する。
	* 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談	自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合 A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>81% A</u>	成果: 授業及び家庭学習課題の工夫が進み、学習意欲が向上した生徒が増えている。 課題: 本校生徒は全体的に真面目な態度で授業を受け、家庭学習課題の提出状況も非常に良好である。しかし、人前力・本番力の面でひ弱さを感じられる。 改善策: 家庭学習と連動した授業づくりを探究していくことに加え、家庭での生活習慣(スマートフォンの使用状況等)について家庭・小中学校と連携してルールづくりを行い、生徒一人一人の意識改革・行動改革に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価		・入学当初の模試より模試成績を向上させた1年生の割合が36%D判定になっているが、昨年度の判定も踏まえ判定基準を考慮してもよいのではないかと。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・基礎力の向上はみられるが、今後は応用力の向上を図るため、習熟度別学習による精選した問題に取り組ませる。 ・判定基準に関しては検討を行う。		

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3: キャリア意識と人間力の向上</p> <p>① 3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導を実践する</p> <p>② 両科生徒が協働した事業を実施する</p> <p>③ 学校行事・課外活動を活性化</p>	<p>* 3年間を見通した指導計画の作成と実践</p> <p>* 全校挨拶運動</p> <p>* 登校指導</p> <p>* 進路自主学习</p> <p>* チャレンジウォーク</p> <p>* 学校祭</p> <p>* 部活動</p> <p>* ボランティア活動</p>	<p>内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している</p> <p>A 満足している</p> <p>B ある程度満足している</p> <p>C あまり満足していない</p> <p>D 満足していない</p> <p>自分はTPOに応じて、適切な振る舞いができていると考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上</p> <p>B 60%以上</p> <p>C 50%以上</p> <p>D 50%未満</p> <p>学校行事や部活動に積極的に取り組むことができたと考える生徒の割合が</p> <p>A できた</p> <p>B ある程度できた</p> <p>C あまりできなかった</p> <p>D できなかった</p>	<p>A 72%</p> <p>B 24%</p> <p>A+B 96%</p> <p>94% A</p> <p>A 48%</p> <p>B 39%</p> <p>A+B 87%</p>	<p>成果: きめ細かな就職指導や進学指導を継続した結果、大半の生徒が内定企業や合格(出願)した大学等に満足している。</p> <p>課題: 卒業後、早期(3年以内)に就職先・進学先を変更する者がいるので、生徒一人一人の適性に応じた進路指導を継続的に行っていかなければならない。</p> <p>改善策: 個人面談・保護者懇談・キャリア教育の機会を通して、生徒一人一人の適性をより深く把握し、生徒と就職・進学先とのミスマッチを減らす。</p> <p>成果: 生徒会とも連携し、小学生への挨拶指導や部活動単位での挨拶運動を実施することにより、TPOを考える機会を増やすことができた。</p> <p>課題: 人間力の基盤づくりとして、挨拶のみならず、身だしなみ、言葉遣い、会話のやりとり、時間厳守、マナーなど学校生活全般での規範意識を向上させなければならない。</p> <p>改善策: 教務課・部活動と連携し、授業や部活動の中でも挨拶や身だしなみを指導する。また、総務課・PTAとも連携し、家庭でもルールやマナーを守り、正しい言葉遣いや会話のやりとりができるよう指導する。</p> <p>成果: 学校祭やチャレンジウォークなどの学校行事、及び部活動に、生徒は積極的に取り組むことができた。</p> <p>課題: 各行事の企画段階から、生徒の主體的な関わりを増やす必要がある。</p> <p>改善策: 各行事を企画・立案する段階から、生徒目線の意見を取り入れ、生徒の積極的な参加を推進する工夫をし、より一層生徒が主体となって運営に取り組むことができるようにする。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から輪島高校への進学希望者を増やすため、部活動を含めた学校の活性化をお願いしたい。 ・様々な行事を通して生徒一人一人にあった教育を行い、生徒を伸ばしている姿が見られる。 ・高校生が挨拶をしっかりとできるようになっているが、取組を継続して欲しい。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の中学生が進学を希望するような魅力ある学校づくりを目指し、部活動の活性化や学習指導体制の強化を図る。 ・普通科と総合学科の相乗効果で生徒を育成し、学校活動全体に活かしていく。 ・全校での挨拶練習を継続し、TPOに応じて生徒自らが挨拶できるように指導する。 			